

卒業生の皆さん、卒業まことにおめでとうございます。

本日は、南丹市 佐々木市長様、学友会 西谷副会長様 はじめ多くのご来賓の方々のご列席のもと、京都医療科学大学卒業式・学位記授与式をとりおこなえますことは、本学にとりましても、また私にとりましても、たいへん大きな喜びであります。この卒業式にご出席くださいましたご家族、関係者の方々にも、心よりお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんがこの良き日を迎えることができたのは、皆さん自身の毎日の努力はもちろんですが、今日まで深い愛情を注いで、励ましてくださったご両親、ご家族、その他多くの方々の支援があったからこそです。

保護者の皆様には、本学の教育に対して、ご理解とご協力をいただきましたことに、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

さらに入学以来、卒業生を今日までご指導くださいました教職員全員に、学長として深甚なる感謝の意を表したいと思います。

卒業生の皆さん、皆さんは全員、診療放射線技師国家試験に合格し、ホッとしているこの頃でしょう。これからは、全国各地の病院で、診療放射線技師として働くことになります。

ただ診療放射線技師の資格を持ったとはいえ、卒業生の皆さんは、まだ生まれたばかりの、ひとり歩きできない赤ちゃんなのです。現場ではまだ何もできません。親のお陰で、赤ちゃんから何年もかけて成長するように、これからは現場の先輩に教えてもらいながら、一人前の放射線技師に成長してゆきます。

これからも生涯、本学の建学の精神

「品性を陶冶し、有為の技術者を養成することを以て目的とす」を、心に留めておいてください。放射線医療の技術とともに品性、人間性を磨いてください。仕事では、どのような仕事であれ、その人の人間性が現れてきます。

「一流の人間性があるからこそ、初めて、一流の仕事が出来るのです。」

大学生活を振り返ると、楽しいことも、苦しいこともあったことでしょう。私にとっても皆さんと一緒に食べた美味しいバーベキュー、あるいはスポーツ大会、学園祭など、楽しい思い出が一杯です。しかし、時には試験で実力が発揮できなかった時も、勉強が分からず苦勞した時も、あるいは友人関係で悩んだ時もあったはずです。皆さんはそれらの苦勞、悩みを乗り越えて、この日を迎えることができました。

放射線の医学利用、放射線診断、放射線治療は急速に進展しています。大学では放射線の基礎から、最先端の放射線技術まで学びました。しかし、現在の最先端の技術も、数年後には新しい技術に置き換わります。皆さんはこれから 50 年近く診療放射線技師として仕事することになりますが、今から 50 年前の 1967 年。昭和 42 年。ご両親が生まれたころでしょうか、大きなコンピュータがやっと出来ていました。しかし、パソコンもインターネットはありませんし、メールも携帯電話もありませんでした。もちろん CT 装置も MRI 装置もまだ開発されていません。

しかし、この 50 年の間に、科学は急速に進歩し、コンピュータ、CT、MRI が病気の診断、治療に欠かせなくなりました。また人工知能 AI も、まもなく医療の分野にも導入されようとしています。

皆さんは新しい技術を積極的に取り入れ、それをマスターし、使いこなさなければなりません。これから難しい技術、困難な局面にいくつも出会います。それらを解決し、乗り越えてゆかねばなりません。

本学では、難しい問題を解決する心構え、分からないことを理解する努力などを、学んだことでしょう。難しいことに挑戦すること

により、成長するのです。

ただ、人生はなかなか思うようにならないものです。人生は挫折するものです。しかし、家族、友人、先輩、教師などに助けをもらい、励ましてもらいながら、努力し、一生懸命頑張れば、必ず道は開けてきます。

社会人となつてからの恩返しは、両親、家族だけではありません。社会への恩返し、社会貢献しなければなりません。6年前の今日、3月11日、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故が起きました。今なお何万人という人が故郷に帰れず、避難生活をしていますし、避難した人への「いじめ」「原発いじめ」が、今なお問題になっています。

診療放射線技師は「放射線の基礎からその利用まで、系統だって学ぶ唯一の職種」です。震災直後、多くの放射線技師が、福島に行き、現地の放射線量の測定などを行いました。本校の教員、職員も交代でボランティアとして福島に行き、お手伝いしました。

放射線技師となつた皆さんが、放射線の健康影響についての正確な情報を、地域の住民、国民に伝えなければなりません。また原発事故が起きた際には、放射線技師が地域のリーダーにならなけれ

ばなりませんし、皆さんの知識が、周囲の方々の安全と安心につながります。

「自分のためでなく、他人に役立つのが、最高の幸せです。」

本学の日本で最も長い歴史は、4千人余りの先輩からなる学友会会員の母校に対する献身的支援があつてのことです。多くの先輩の苦勞があつてこそ、皆さんの今日があるということを忘れないください。卒業生の皆さんが本学をさらに発展させるという、強い自覚と責任を持ってください。本学が発展するかどうかは、卒業生の皆さん如何にかかっています。

本学は創立してから、今年は90年目を迎えます。90周年記念事業として、新校舎が完成したばかりですが、皆様は新校舎で学ぶことなく、卒業することになります。卒業後、いつでも本学を訪ね、新校舎を見学し、新しく出来る学生食堂で食事を召し上がってください。皆様のお越しを、歓迎いたします。

卒業生の皆さんが、4月からそれぞれの病院で、職場で、診療放射線技師として活躍され、社会に貢献する人材になられることを、心より期待しています。

皆さんの輝かしい新しい門出を祝福して、私の餞（はなむけ）の

言葉といたします。

平成 29 年 3 月 11 日

学校法人島津学園 京都医療科学大学

学長 遠藤 啓吾